macOS

ピクチャースタイルファイル作成用ソフトウェア

Picture Style Editor

Ver.1.25

使用説明書

本使用説明書上のおことわり

- 名称の Picture Style Editor を PSE と表記しています。
- ▶ の手順は、メニューの選択順序を示しています。（例：メニューの［Picture Style Editor］▶［Picture Style Editor を終了］を選ぶ）
- [ ] 内の語句は、パソコン画面上に表示されるメニューやボタン、画面の名称を示しています。
- 〈 〉内の語句は、キーボードのキー名称を示しています。
- p.** の ** は、参照ページを示しています。また、クリックすると参照ページが表示されます。
- ：注意事項です。
- ：補足説明です。

ページの移動

- 画面右下のマークをクリックします。
  - ：次ページ
  - ：前ページ
  - ：ひとつ前に表示していたページに戻る
- 画面右端に配置された見出しをクリックすると、見出しのページが表示されます。また、目次ページの読みたい項目をクリックすると、そのページが表示されます。

© CANON INC. 2020　CCS-M105PSEMJ-200

はじめに

Picture Style Editor（以降 PSE と表記）は、ピクチャースタイルを自分好みの画像特性に編集し、編集した結果をオリジナルのピクチャースタイルファイルとして保存するソフトウェアです。

ピクチャースタイルファイルとは？

ピクチャースタイルの拡張機能で、プリセットの 8 種類（オート、スタンダード、ポートレート、風景、ディテール重視、ニュートラル、忠実設定、モノクロ）のピクチャースタイルとは異なり、ごく限られたシーンで効果的な画像特性を提供するファイル（拡張子は .PF2、.PF3）です。

ピクチャースタイルファイルを撮影シーンに合わせて使用することで、一層、表現力を広げることができます。

PSE でできること

PSE では、下記の機能を使ってピクチャースタイルを自分好みの画像特性に編集し、編集した結果をオリジナルのピクチャースタイルファイル（拡張子は、.PF2、.PF3）として保存することができます。

- 基本とするピクチャースタイルの選択
- 「シャープネス」、「コントラスト」、「色の濃さ」、「色あい」の設定
- 指定した色の調整
- 明るさとコントラスト（ガンマ特性）の調整

また、保存したオリジナルのピクチャースタイルファイルは、「ピクチャースタイル機能搭載カメラ」に登録して撮影画像に適用したり、Digital Photo Professional（以降 DPP）を使って RAW 画像に適用することができます。

カラーマネージメント

PSE は、カラーマネージメントされたパソコン環境でご使用ください。また、使用するモニターのプロファイル設定や、調整作業に使用するサンプル画像の色空間などは、環境設定画面（p.21）で設定してください。

動作環境

OS（オペレーティングシステム）	macOS 10.13 ～ 10.15
機　種	上記の日本語版 OS がプリインストールされているパソコン （アップグレード機は動作保証外）
CPU（シーピーユー）	EOS-1D X Mark III、EOS R5、EOS R6 で撮影した画像： インテル Core i シリーズ（推奨インテル Core i7 以上） それ以外のカメラで撮影した画像： Core 2 Duo 2.0GHz 以上（推奨 Core i シリーズ以上）
RAM（メモリー）	EOS-1D X Mark III、EOS R5、EOS R6 で撮影した画像： RAM 4.0GB 以上（推奨 RAM 8.0GB 以上） それ以外のカメラで撮影した画像： RAM 2.0GB 以上（推奨 RAM 4.0GB 以上）

調整用サンプル画像

PSE では、EOS DCS1、EOS DCS3 を除く EOS デジタルカメラ、PowerShot G7 X Mark II、PowerShot G9 X Mark II、PowerShot G1 X Mark III、PowerShot G5 X Mark II、PowerShot G7 X Mark III で撮影した RAW 画像 * を調整用のサンプル画像として使い、調整した結果をオリジナルのピクチャースタイルファイルとして保存することができます。

* EOS D6000、EOS D2000 で撮影した RAW 画像は、CR2 Converter で「.CR2」の拡張子が付いた RAW 画像に変換した画像に対応。
CR2 Converter については、キヤノンホームページをご覧ください。

目　次

はじめに 2
動作環境 2
調整用サンプル画像 3
サンプル画像を用意する 5
PSE を立ち上げる 5
サンプル画像を開く 5
基本画面 6
　メイン画面 6
　　特定の箇所を拡大する 7
　　元画像と見比べながら調整する 7
　ナビゲーター画面 8
　　警告表示を設定する 8
　ツールパレット 9
画像を前調整する 10
　明るさを適正にする 10
　ホワイトバランスを適正にする 10
画像特性の基本調整を行う 11
　基本とするピクチャースタイルを選ぶ 11
　　ダウンロードした目的別のピクチャースタイルファイルを使う 11
　シャープネス、コントラスト、色の濃さ、色あいを設定する 12
　RGB のガンマ特性を調整する 12
色を調整する 13
色を微細に調整する 14
　調整したい色を直接指定する 17
　　調整したい色をカラーホイール上で指定する 17
　　色値を入力して指定する 17
　調整色リストの表示と機能 17
　　調整した色の影響範囲の重複 17
　　調整した色の削除 17
　色の表示モード 18
　輝度のガンマ特性を調整する 18
調整内容をピクチャースタイルファイルとして保存する 19
ピクチャースタイルファイルを使う 20
　ピクチャースタイルファイルをカメラに登録する 20
　ピクチャースタイルファイルを DPP で使う 20
環境設定 21
PSE を終了する 21
資　料 22
　こんなときは 22
　ソフトウェアを削除する（アンインストール） 22

サンプル画像を用意する

PSE では、サンプル画像を使って各種の調整作業を行い、調整した結果をオリジナルのピクチャースタイルファイルとして保存します。そのため、調整作業に使うサンプル画像（p.3）を事前に用意し、パソコンへ保存しておきます。

なお、PSE で設定した内容は、サンプル画像とは別のピクチャースタイルファイルとして保存（p.19）されるため、調整作業に使ったサンプル画像自体は一切変更されません。

PSE を立ち上げる

Dock の［Picture Style Editor］アイコンをクリックする

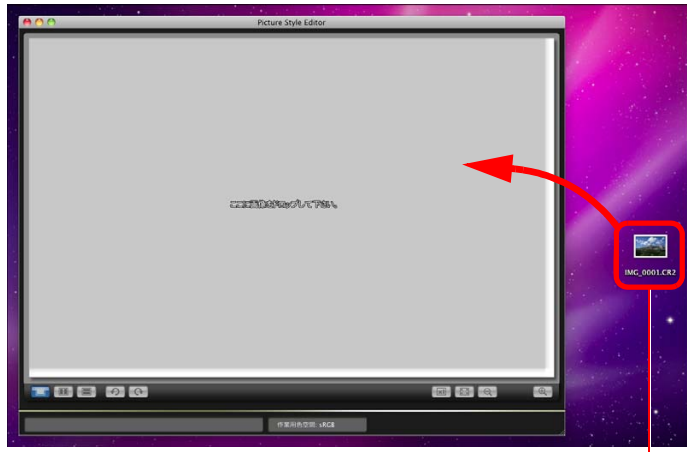
➜ 立ち上がるとメイン画面（右記）が表示されます。

サンプル画像を開く

サンプル画像を開き、この画像を元に各種の調整を行います。

なお、EOS Solution Disk Ver.26 以降に収録されている PSE では、サンプル画像にノイズ低減が行われる場合があります。

サンプル画像をメイン画面にドラッグ＆ドロップする



ドラッグ＆ドロップ

➜ サンプル画像が、撮影時のカメラ設定でメイン画面に表示されます。

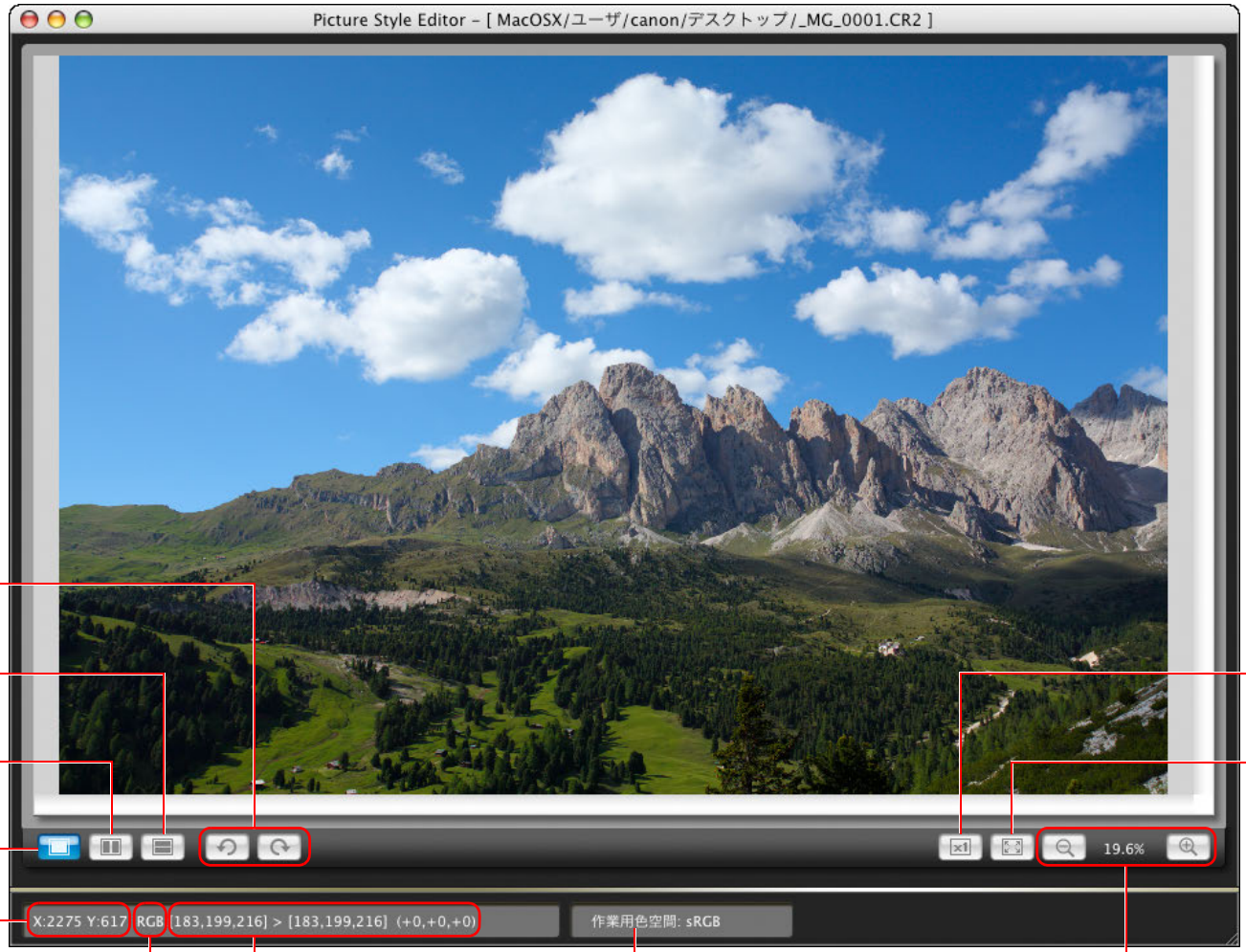
➜ ［ツールパレット］が表示されます。

- PSE で開いたサンプル画像は、撮影時のカメラ設定が反映されていますが、オートライティングオプティマイザの設定は反映されません。
- DPP で調整した RAW 画像を、サンプル画像として PSE で開いたときは、DPP の調整内容は反映されません。

基本画面

メイン画面

サンプル画像の表示倍率や表示方法などを選ぶことができます。



画像回転（左右 90 度単位）

調整前後比較表示（上下分割）（p.7）

調整前後比較表示（左右分割）（p.7）

通常表示

カーソルの座標位置

100%（ピクセル等倍）表示

全体表示

作業用色空間表示（p.21）

カーソルの色値（調整前／調整後／調整前後の差）（8bit 換算）

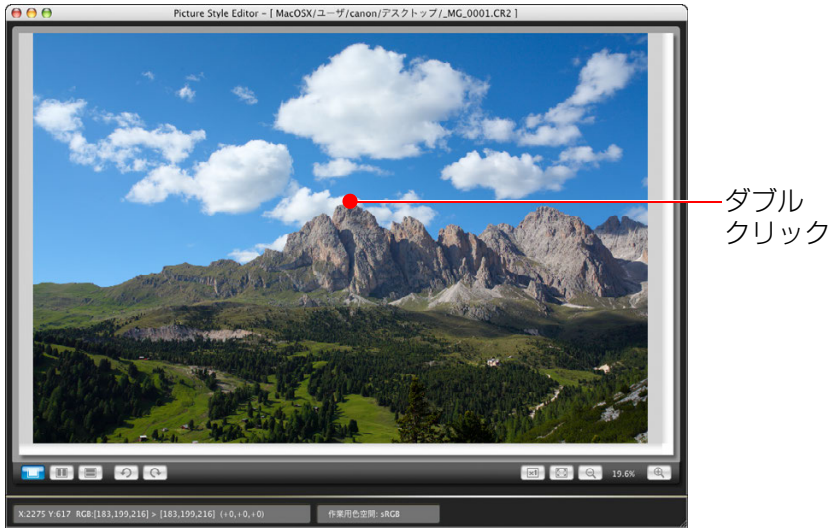
色の表示モード（p.18）

表示倍率（12.5%、25%、50%、100%、200%の 5 段階）

特定の箇所を拡大する

メイン画面上の特定箇所を、100%の拡大表示にすることができます。

メイン画面上の拡大したい箇所をダブルクリックする



➜ ダブルクリックした箇所を中心に、100%（ピクセル等倍）の拡大表示になります。また、しばらくすると、より鮮明な表示に切り換わります。

- 表示位置を変えるときは、画像上をドラッグするか、**[ナビゲーター]** 画面の拡大表示位置（p.8）をドラッグします。
- 再度ダブルクリックすると全体表示に戻ります。

元画像と見比べながら調整する

調整前と調整後の画像を同一画面に表示して、調整結果を確認しながら各種の調整を行うことができます。

[ ] または [ ] を選ぶ

➜ 画像が上下または、左右に分割されて表示されます。

[ ]（上下分割）の表示

- 上側に調整前、下側に調整後の画像が表示されます。

[ ]（左右分割）の表示

- 左側に調整前、右側に調整後の画像が表示されます。

ナビゲーター画面

メイン画面で画像を拡大したときの表示位置や、画像のヒストグラムを表示します。また、過度な設定を防ぐのに役立つ警告表示を設定することもできます。

[ナビゲーター] 画面を表示する

● メニューの [表示] ▶ [ナビゲーター] を選びます。

拡大表示位置（p.7）
ドラッグ操作で表示位置を移動

ヒストグラムの表示切り換え

ヒストグラム

警告表示設定

警告範囲

ヒストグラム表示の [Y] は、輝度を示しています。

警告表示を設定する

過度な設定を防ぐのに役立つ、輝度値（Y）と色値（RGB）の警告表示を設定することができます。設定範囲を越えた輝度値、色値の領域は、メイン画面上の画像に警告表示として点滅表示されます。

1 [警告を画像に表示する] をチェックして、[Y] または [RGB] を選ぶ

2 警告範囲の上下限値を入力する

➜ 上下限範囲を越えた値の領域が、メイン画面上の画像に点滅表示されます。

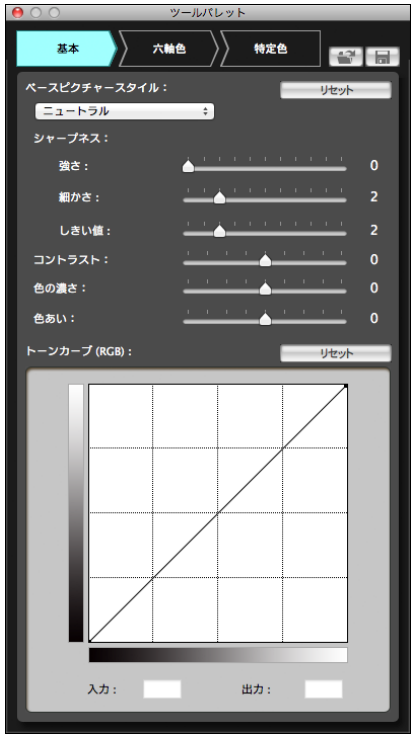
● 警告表示を停止するには、[警告を画像に表示する] からチェックを外します。

ツールパレット

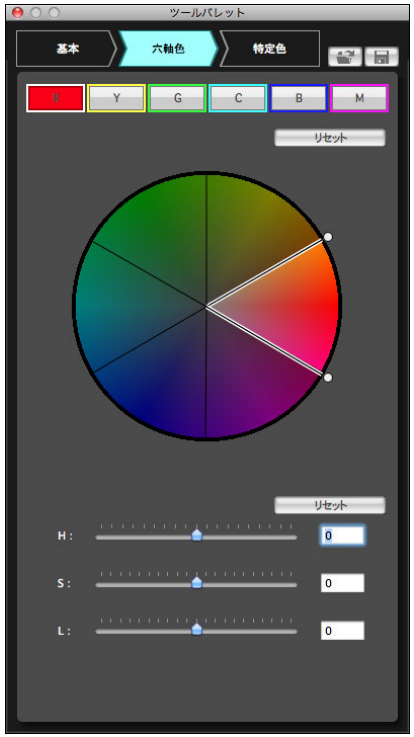
［ツールパレット］の各種機能を使って、ピクチャースタイルファイルの画像特性を調整することができます。
また、［ツールパレット］で調整した内容は、メイン画面上の画像へすぐに適用されるため、調整内容を確認しながら作業を進めることができます。
なお、調整は、次の順序で行うことをおすすめします。

（1）［基本］タブ画面で調整（p.11）
（2）［六軸色］タブ画面で調整（p.13）
（3）［特定色］タブ画面で調整（p.14）

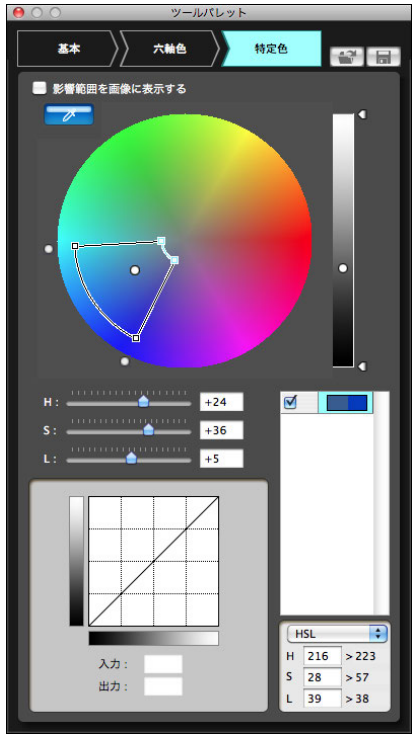
［基本］タブ画面
画像特性の基本部分の調整を行います。



［六軸色］タブ画面
画像特性の色調整を行います。



［特定色］タブ画面
特定の色域の微細調整を行います。



メニューの［表示］▶［ツールパレット］を選ぶと、［ツールパレット］を表示／非表示にすることができます。

画像を前調整する

調整作業に使うサンプル画像（p.3）が、適正な露出やホワイトバランスになっていないときは、画像の明るさとホワイトバランスが適正な状態になるよう、**[事前調整]** 画面で調整することができます。

ただし、**[事前調整]** 画面での調整は、あくまでも **[ツールパレット]**（p.9）での調整を適正に行うための事前調整です。そのため、**[事前調整]** 画面の調整内容は、作成するピクチャースタイルファイルには反映されません。

なお、調整作業に使うサンプル画像が適正な露出、ホワイトバランスになっているときは、**[事前調整]** 画面での調整は必要ありません。

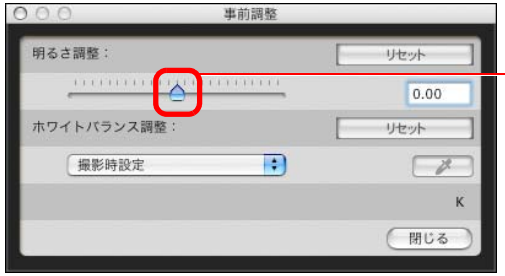
明るさを適正にする

1 メニューの [ツール] ▶ [事前調整] を選ぶ

➜ **[事前調整]** 画面が表示されます。

● **[事前調整]** 画面を表示したときは、メイン画面の表示を調整前後比較表示（p.7）にしていても、通常表示に切り換わります。

2 画像の明るさが適正になるよう調整する

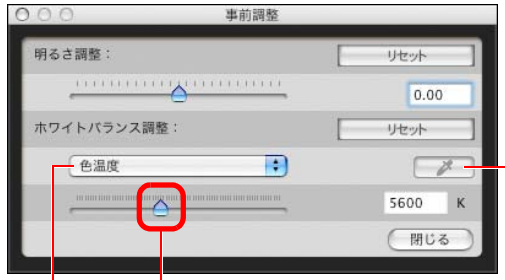


左右にドラッグして調整

➜ 調整内容が画像に適用されます。

ホワイトバランスを適正にする

ホワイトバランスが適正になるよう調整する



クリックホワイトバランス [ ] ボタンを押したあと、画像上の白の基準とする箇所をクリック

色温度スライダー
ホワイトバランスリストボックスで **[色温度]** を選んだあと、左右にドラッグ

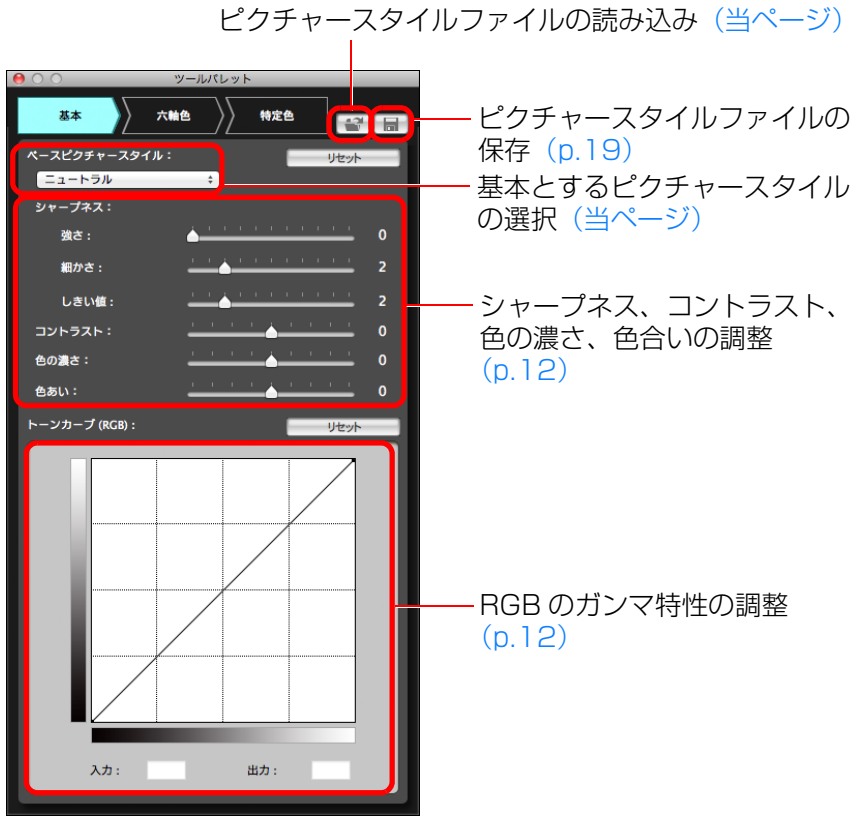
ホワイトバランスの選択

➜ 調整内容が画像に適用されます。

画像特性の基本調整を行う

［ツールパレット］の［基本］タブ画面を使って、画像特性の基本調整を行います。

［ツールパレット］の［基本］タブを選択する



➜［基本］タブ画面が表示されます。

基本とするピクチャースタイルを選ぶ

調整の基本とするピクチャースタイルを、オート、モノクロを除くプリセットのピクチャースタイルから選びます。

また、キヤノンホームページからダウンロードした、目的別のピクチャースタイルファイルを登録して使うこともできます。

ピクチャースタイルを選ぶ

➜選んだピクチャースタイルが画像に適用されます。

ダウンロードした目的別のピクチャースタイルファイルを使う

1 ［ ］ボタンを押す

➜［ピクチャースタイルファイルを開く］画面が表示されます。

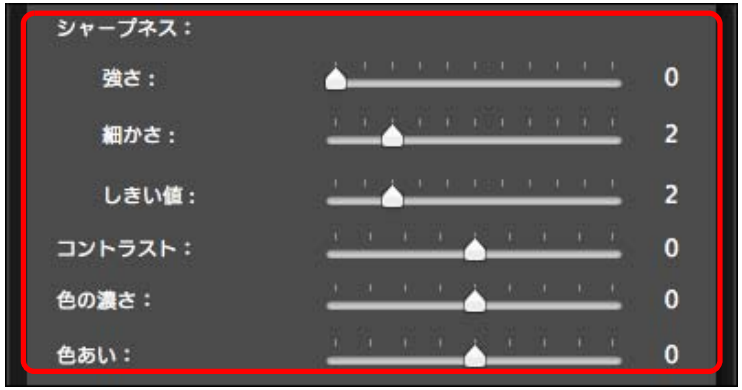
2 登録するピクチャースタイルファイルを選んで、［開く］ボタンを押す

➜選んだピクチャースタイルファイルが、画像に適用されます。

- PSE で作成したオリジナルのピクチャースタイルファイル（p.19）も、上記の操作で登録して使うことができます。
- PSE が対応するピクチャースタイルファイルは、拡張子が「.PF2」と「.PF3」のファイルです。
- カメラ本体のプリセットのピクチャースタイルに［ディテール重視］が含まれないカメラで撮影した画像では［ベースピクチャースタイル］に［ディテール重視］を選ぶことはできません。

シャープネス、コントラスト、色の濃さ、色あいを設定する

各スライダーをドラッグする



➜ 設定内容が画像に適用されます。

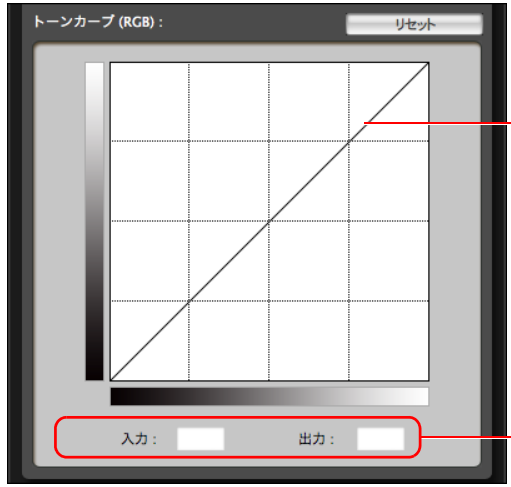
カメラ本体のプリセットのピクチャースタイルに［**ディテール重視**］が含まれないカメラで撮影した画像では［**シャープネス**］の［**細かさ**］［**しきい値**］の設定はできません。

RGB のガンマ特性を調整する

トーンカーブを使って、RGB の明るさとコントラストを調整することができます。

当タブ画面のトーンカーブは、［**六軸色**］タブ画面、［**特定色**］タブ画面で調整を行う前に使用してください。

明るさとコントラストを調整する



クリックして［□］（調整ポイント）を作成し、ドラッグして調整

選択ポイントの値（数値入力も可能）

➜ 画像の明るさとコントラストが変わります。

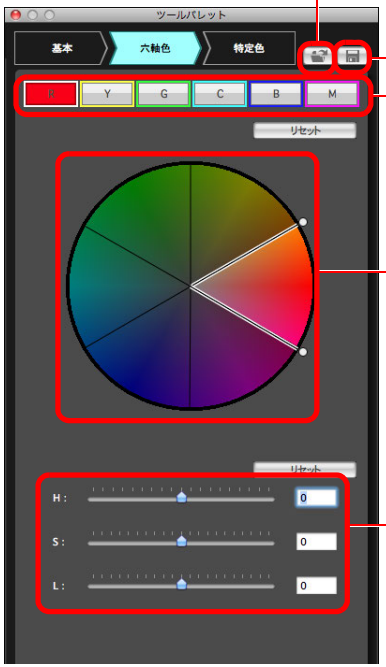
- 横軸は入力レベル、縦軸は出力レベルを示しています。
- ［□］の数は最大 10 個です。
- ［□］を消すときは、［□］を選んでキーボードの〈delete〉キーを押すか、［□］をダブルクリックします。

［**六軸色**］タブ画面や［**特定色**］タブ画面で調整した後に、［**基本**］タブ画面のトーンカーブで調整すると、色の特性が再調整されて、意図した画像特性にならないことがあります。［**六軸色**］タブ画面や［**特定色**］タブ画面で調整した後、さらに明るさとコントラストの調整をするときは、輝度の調整を行う［**特定色**］タブ画面のトーンカーブを使用してください。

色を調整する

選択した色の領域を、色相（Hue）、彩度（Saturation）、明度（Luminosity）の３つの項目で調整することができます。

1 ［ツールパレット］の［六軸色］タブを選択する



ピクチャースタイルファイルの読み込み（p.11）

ピクチャースタイルファイルの保存（p.19）

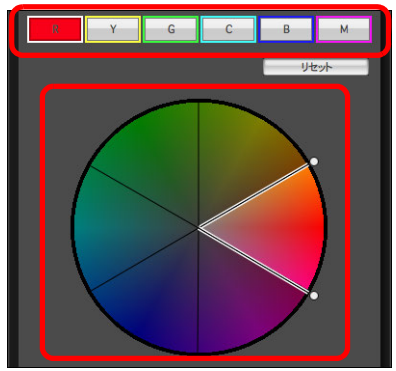
色相領域選択タブボタン（当ページ）

調整カラーホイール（当ページ）

色相調整スライダー（p.14）

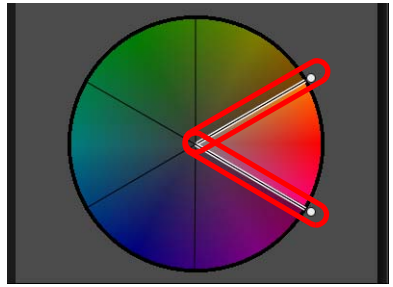
➜［六軸色］タブ画面が表示されます。

2 調整したい色の領域を選択する



●調整カラーホイールから、調整したい色の領域を選択します。
色相領域選択タブボタンを押して、色の領域の選択を行うこともできます。

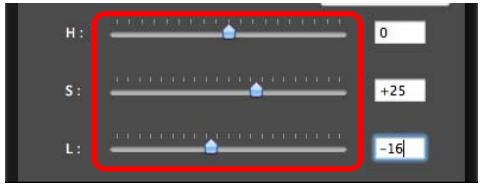
3 選択領域の色相の上下限範囲を調整する



●各色相の境界線を円周方向にドラッグすることで、選択領域の色相の上下限範囲を調整することができます。

［六軸色］タブ画面で調整した後に、［基本］タブ画面で調整を行うと、色の特性が再調整されて、意図した画像特性にならないことがあります。調整は、次の順序でおこなうことをおすすめします。
（1）［基本］タブ画面で調整、（2）［六軸色］タブ画面で調整、（3）［特定色］タブ画面で調整

4 色の調整を行う

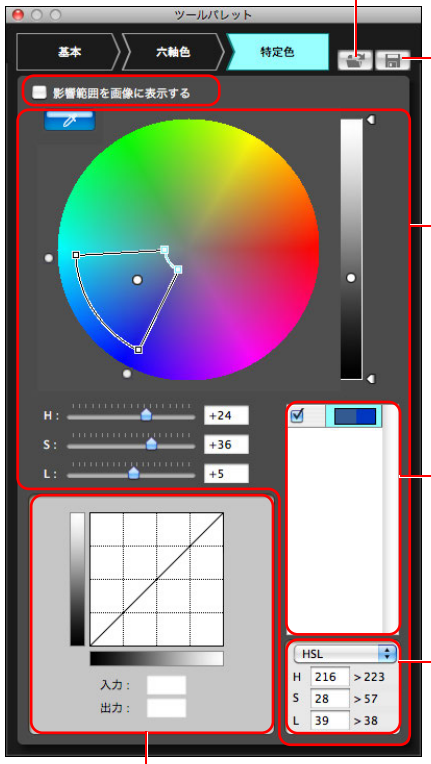


- スライダーを操作して、色の調整を行います。数値を直接入力することで調整することもできます。
  H：色相 (Hue) を調整します。
  S：彩度 (Saturation) を調整します。
  L：明度 (Luminosity) を調整します。

色を微細に調整する

指定した色を、色相、彩度、明度の 3 つの機能を使って微細に調整し、目的の色へ近づけることができます。また、指定した色の調整にともなう周辺色への影響範囲を限定することもできます。

1 ［ツールパレット］の［特定色］タブを選択する



ピクチャースタイルファイルの読み込み（p.11）

ピクチャースタイルファイルの保存（p.19）

指定色の微細設定（p.15）

調整色リスト（p.17）

色の表示モード（p.18）

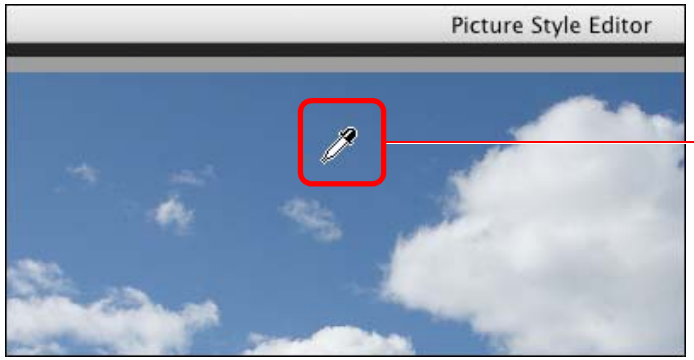
輝度のガンマ特性の調整（p.18）

➜［特定色］タブ画面が表示されます。

［特定色］タブ画面で調整した後、［六軸色］タブ画面や［基本］タブ画面で調整を行うと、色の特性が再調整されて、意図した画像特性にならないことがあります。調整は、次の順序で行うことをおすすめします。
（1）［基本］タブ画面で調整、（2）［六軸色］タブ画面で調整、（3）［特定色］タブ画面で調整

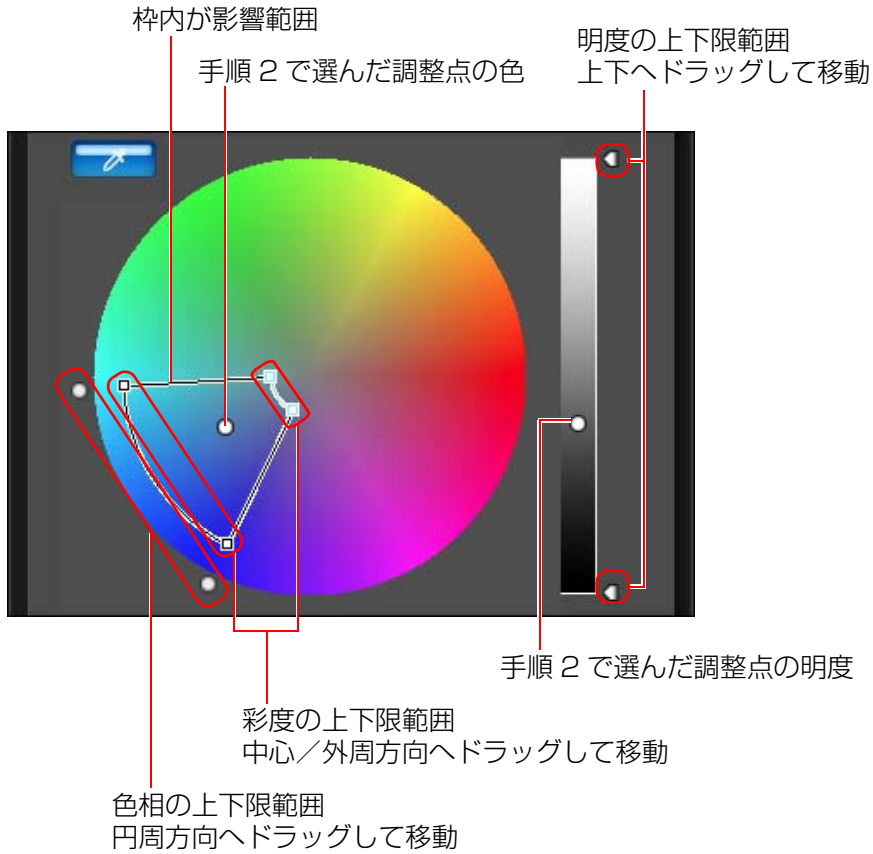
2 調整したい色を指定する

● [ ] ボタンを押して、画像上の調整したい色の箇所をクリックします。



➜ 選んだ色が調整点として、カラーホイール上に [ ] で表示されます。

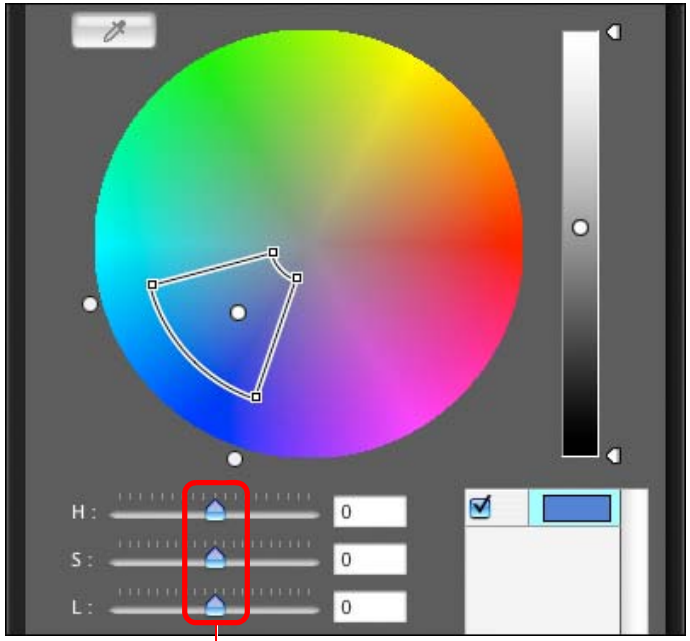
3 調整する色の影響範囲を決める



● 色相、彩度、明度の影響範囲は、下記の上下限範囲で設定することができます。

設定項目	上下限範囲
色　相	30 ～ 180 度
彩　度	30 ～ 100
明　度	30 ～ 100

4 色を調整する



左右にドラッグして調整

➜ 手順 3 で設定した範囲で色が調整され、画像の色が変わります。

● ドラッグ中は、調整前の点を示す［◯］と、調整後の点を示す［●］がカラーホイール上に表示されます。

5 適用範囲を確認する

● **［影響範囲を画像に表示する］**をチェックすると、調整した色の適用範囲が画像上に点滅表示されます。

6 手順 2 ～ 5 の操作を繰り返して、複数の色を調整する

● 最大 100 箇所の色を選んで調整することができます。

● EOS Utility のリモートライブビュー機能と PSE を連携させてピクチャースタイルを編集するときは、**［影響範囲を画像に表示する］**チェックボックスは表示されず、調整した色の適用範囲を確認することはできません。

● 調整したい色の指定は、手順 2 の操作方法とは別の方法で指定することもできます。（p.17）

調整したい色を直接指定する

調整点の指定は、画像上の調整したい色をクリックする方法（p.15）の他に、カラーホイール上で調整したい色を直接指定したり、色値を入力して指定することもできます。

調整したい色をカラーホイール上で指定する

1 **［ ］ボタンを押す**（p.15）

2 **カラーホイール上の調整したい色の箇所をクリックする**

→ クリックした箇所の色が調整点として、カラーホイール上に［ ］で表示されます。

色値を入力して指定する

1 **メニューの［編集］▶［調整色の数値指定］を選ぶ**

→［調整色の数値指定］画面が表示されます。

2 **色値を入力する**

→ 入力した色値の色が調整点として、カラーホイール上に［ ］で表示されます。

調整色リストの表示と機能

調整色のリスト（p.9）には、調整前と後の色表示の他に、調整色の影響範囲の重複を示す表示や、調整した色を適用／非適用にするチェックボックスがあります。

調整した色の影響範囲の重複

調整した色をリスト上で選んだ際に［ ］が表示されたときは、調整した色の影響範囲（p.15）が、他の調整した色の影響範囲と重なっています。

また、重なっている影響範囲は、カラーホイール上にグレーで表示され、調整した色の影響が合算されて適用されます。

影響範囲の重なりを避けるときは、［ ］が表示される色項目を選び、色相、彩度の影響範囲が重ならないよう再設定してください。

調整した色の削除

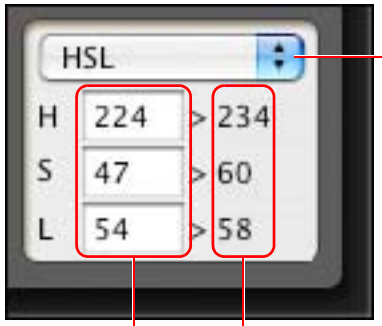
削除した色項目は復元できません。十分注意してください。

リストから削除する色項目を選び、キーボードの〈delete〉キーを押す

→ 選んだ調整色の項目が削除されます。

色の表示モード

色調整の前提とする色の表示モードを HSL、Lab、RGB の 3 種類から選んだり、調整した色の値を確認することができます。



色の表示モードの切り換え

調整前の色値　調整後の色値

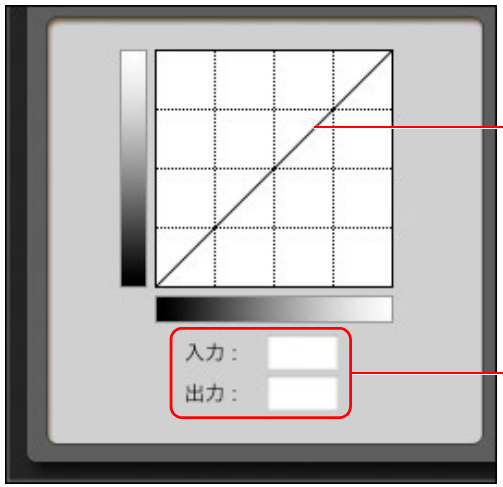
- 色の表示モードで「HSL」を選んだときは、調整前の色値のみ、数値入力して変えることができます。

- HSL は、H（Hue ／色相）、S（Saturation ／彩度）、L（Luminosity ／明度）の 3 要素で表現されるカラーモードです。
- Lab は、CIE（Commission Internationale d'Eclairage ／国際照明委員会）が提唱するカラーモードで、L は輝度、a は緑から赤までの色要素、b は青から黄までの色要素を示します。
- RGB は、色光の三原色（加法混色）である、R（Red ／赤）、G（Green ／緑）、B（Blue ／青）で表現されるカラーモードです。

輝度のガンマ特性を調整する

トーンカーブを使って、画像特性全体の輝度の明るさとコントラストを調整することができます。**［六軸色］**タブ画面や**［特定色］**タブ画面で画像特性を調整した後、さらにコントラストと明るさを調整するときは、この**［特定色］**タブ画面のトーンカーブを使用してください。

明るさとコントラストを調整する



クリックして［□］（調整ポイント）を作成し、ドラッグして調整

選択ポイントの値（数値入力も可能）

➜ 画像の明るさとコントラストが変わります。

- 横軸は入力レベル、縦軸は出力レベルを示しています。
- ［□］の数は最大 10 個です。
- ［□］を消すときは、［□］を選んでキーボードの〈delete〉キーを押すか、［□］をダブルクリックします。

調整内容をピクチャースタイルファイルとして保存する

［ツールパレット］で調整した内容（p.11 ～ p.18）を、オリジナルのピクチャースタイルファイル（拡張子は .PF2、.PF3）として、パソコンに保存します。

なお、調整内容は、サンプル画像とは別のピクチャースタイルファイルとして保存されるため、調整作業に使ったサンプル画像自体は一切変更されません。

1 ［ ］ボタンを押す

➜［ピクチャースタイルファイルを保存］画面が表示されます。

2 名前や場所を設定して［保存］ボタンを押す

- ［名前］、［キャプション］、［コピーライト］に入力できるのは半角英数字です。
- PSE で調整した内容を開示したくないときは、［再編集を不可にする］をチェックして保存すると、以後 PSE で開けなくすることができます。

➜ 設定した保存先に、ピクチャースタイルファイルとして保存されます。

PF2 ファイル形式で保存すると、以下の調整内容が記録されませんので、PF3 ファイル型式で保存してください。

- ［基本］タブ画面で行った［シャープネス］の［細かさ］、［しきい値］調整
- ［基本］タブ画面で行ったトーンカーブ調整
- ［六軸色］タブ画面で行った調整

［再編集を不可にする］をチェックして保存したピクチャースタイルファイルは、チェックせずに保存したピクチャースタイルファイルと同じように使うこと（p.20）ができます。ただし、以後 PSE で開くことはできないため、［再編集を不可にする］をチェックしないピクチャースタイルファイルを、別途、事前に保存しておくことをおすすめします。

ピクチャースタイルファイルを使う

保存したピクチャースタイルファイルは、カメラに登録して撮影画像に適用したり、DPP で RAW 画像に適用することができます。

ピクチャースタイルファイルをカメラに登録する

パソコンに保存したピクチャースタイルファイルは、EOS Utility を使って「ピクチャースタイル機能搭載カメラ」（ピクチャースタイル機能搭載の有無については、ご使用のカメラ使用説明書でご確認ください）に登録し、撮影画像に適用することができます。

操作方法については、「EOS Utility 使用説明書」（PDF 形式の電子マニュアル）の「ピクチャースタイルファイルをカメラに適用する」を参照してください。

［ベースピクチャースタイル］を**［ディテール重視］**に設定して作成したピクチャースタイルファイルは、カメラ本体のプリセットのピクチャースタイルに**［ディテール重視］**が含まれないカメラに登録することはできません。

ピクチャースタイルファイルを DPP で使う

パソコンに保存したピクチャースタイルファイルは、DPP を使って RAW 画像に適用することができます。

操作方法については、「Digital Photo Professional 使用説明書」（PDF 形式の電子マニュアル）の「ピクチャースタイルファイルを使う」を参照してください。

環境設定

メイン画面に表示するサンプル画像の作業用色空間や、モニターのプロファイル設定など、カラーマネージメントに関する設定を行うことができます。

1 メニューの［Picture Style Editor］▶［環境設定］を選ぶ

➜［環境設定］画面が表示されます。

2 必要な設定をして［OK］ボタンを押す

➜設定内容が適用されます。

調整作業の途中で作業用色空間を変えたときは、カラーホイール上の調整点が、選んだ作業用色空間に連動して移動することがあります。

PSE を終了する

メイン画面でメニューの［Picture Style Editor］▶［Picture Style Editor を終了］を選ぶ

➜PSE が終了します。

こんなときは

PSE が正しく動作しないときは、下記の例を参考にしてください。

手順どおりにインストールできない

- 管理者権限のあるアカウントでログインしないと、ソフトウェアをインストールすることができません。管理者権限のあるアカウントでログインしなおしてください。ログイン方法、管理者の設定方法については、使用している Macintosh や macOS X の使用説明書などを参照してください。

PSE が動かない

- 動作環境と違ったパソコンでは PSE は正しく動作しません。動作環境にあったパソコンを使用してください。（p.2）
- 動作環境（p.2）に記載された RAM（メモリー）容量をパソコンに搭載していても、PSE と共に他のソフトウェアを立ち上げていると、RAM（メモリー）が不足することがあります。PSE 以外のソフトウェアを終了してください。

画像が正しく表示されない

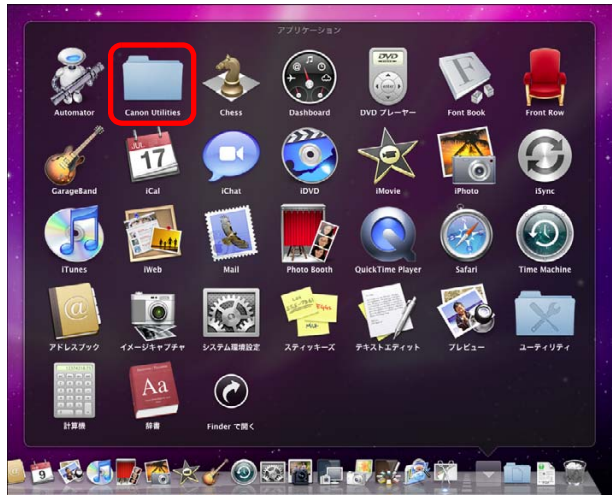
- PSE が未対応のサンプル画像（p.3）は表示されません。

ソフトウェアを削除する（アンインストール）

- ソフトウェアの削除をはじめる前に、立ち上がっているすべてのソフトウェアを終了してください。
- ソフトウェアの削除を行うときは、管理者権限でログインしてください。
- ソフトウェアを削除したあとは、必ずパソコンを再起動してください。パソコンが正しく動作しないことがあります。また、再起動をしないでソフトウェアを再インストールすると誤動作の原因になります。

1 ソフトウェアが保存されているフォルダを表示する

→［Canon Utilities］フォルダを開きます。



2 ［Picture Style Editor］フォルダをゴミ箱に移動する

3 デスクトップ上で、メニューの［Finder］▶［ゴミ箱を空にする］を選ぶ

→ソフトウェアが削除されます。

4 パソコンを再起動する

- ゴミ箱を空にして削除したデータは復元することができません。十分に確認してから削除してください。
- [Picture Style Editor] フォルダをゴミ箱に移動しただけでは、再インストールできません。必ずメニューの **[Finder] ▶ [ゴミ箱を空にする]** を選んでゴミ箱を空にしてください。

この使用説明書について

- 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは、禁止されています。
- ソフトウェアの仕様および、本書の内容を予告なく変更することがあります。
- 本書に掲載しているソフトウェアの画面や表示文言は、実際のソフトウェアと微小に相違することがあります。
- ソフトウェアを運用した結果については、上記にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

登録商標について

- Macintosh は、米国および他の国で登録された米国アップル社の商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

ソフトウェアに関するご相談窓口

お客様相談センター

050-555-90002

受付時間：平日・土 9：00 ～ 17：00
（12 月 31 日～ 1 月 3 日は休ませていただきます）

※上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556 をご利用ください。
※IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。